

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

# 経済的貢献

新興国の経済は勢いを増し、世界経済は大きな転換期を迎えています。世界各地で都市化が進行し、インフラ整備が急務になるとともに、移動手段としてのモビリティへのニーズも高まっています。グローバルに展開する自動車メーカーとして、日産にはすべての人にモビリティを提供し、持続可能なモビリティ社会を実現するという大きな目標があります。その達成に向け、世界のあらゆる市場で商品を提供すべく、事業を地理的に拡大するとともに、開発から部品・資材調達、製造、物流、販売に至るすべてのバリューチェーンをグローバルに展開しています。

こうした企業活動を行っていくうえで、日産は自らの持続的な利益ある成長が不可欠なものだと考えています。利益ある成長は、雇用創出や地域の発展など社会全体の経済的発展に貢献します。日産は企業としての経済的な価値を最大かつ持続的なものにするために、中期経営計画「日産パワー88」を掲げ、実行しています。また、「人々の生活を豊かに」という企業ビジョンを掲げる日産は、技術革新に常にチャレンジし、ゼロ・エミッション車をはじめとする新たな市場を創出するなど、社会全体に対する価値を生み出していきます。そして、その成果を多くのステークホルダーと共有していきます。

## 取り組みの柱

車両生産拠点

〈2016年3月末時点〉

**19**カ国・地域

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

## 経済的貢献

### CSRスコアカード

2015年度目標に対する達成度 ✓:達成 ✓:ほぼ達成 ×:未達成

年間を通じたCSR推進の管理ツールとして「CSRスコアカード」を作成して、「サステナビリティ戦略」ごとの活動の進捗状況を確認し、レビューを行っています。ここでは「CSRスコアカード」のうち、日産が現在実行している事業活動の価値観や管理指標についてご紹介します。

取り組みの柱	目標	進捗確認指標	2014年度実績	2015年度実績	評価	次年度以降の取り組み	長期ビジョン
企業としての利益ある成長を加速	「日産パワー88」を実行・推進し、2016年度末までに連結営業利益率8%、グローバルマーケットシェア8%を達成する	連結営業利益率 (連結会社、中国合弁会社比例連結ベース)	5.8%	7.0%	(未)	2016年度業績見通し 6.6%	持続的な利益ある成長を目指し、あらゆるステークホルダーに長期的な価値を提供し続ける
		グローバルマーケットシェア (連結会社)	6.2%	6.2%	(未)	2016年度業績見通し 6.3%	

▶ 2016.5決算発表時点



▶ GRI G4 Indicators  
▶ G4-6

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 経済的貢献への取り組み

▶ website

▶ 「日産パワー88」に関する詳細はウェブサイトをご覧ください

日産は事業を通じて、社会の経済的発展に貢献するとともに、社会の成長を持続可能なものにすることを目指しています。その実現に向け、2016年度までに実行すべき、明解かつグローバルなビジョンと具体的な戦略を示したのが中期経営計画「日産パワー88」\*です。日産は企業価値を最大化するため、この計画で掲げられたそれぞれの戦略を着実に実行していきます。

### 推進体制

日産グループは日産自動車株式会社とその子会社、関連会社およびその他の関係会社で構成されています。クルマや部品を製造・販売する自動車事業に加え、販売活動を支援するための販売金融サービスも行っています。

世界的な本社機能として「グローバル本社」を設置し、各事業への資源配分を決定するとともにグループ全体の事業を管理しています。またグループを「日本・アジア・オセアニア」「中国」「北米」「中南米」「欧州」「アフリカ・中東・インド」という6つの地域に分けたマネジメント・コミッティによる地域管理と、研究・開発、購買、生産といった機能軸による地域を超えた活動を有機的に統合した組織により運営しています。

### 企業としての持続可能かつ利益ある成長を加速

日産は自動車産業に大きく貢献する企業として世界をリードする役割を担っています。世界中の人々に最適なモビリティを提供する使命があり、持続可能なモビリティ社会の実現に向け、さまざまな課題の解決に貢献する必要があります。またイノベーションを通して新しい価値を創造し人々に提供することも日産の重要な目標です。こうした使命を果たすためにも企業として利益ある成長を持続することが不可欠です。中期経営計画「日産パワー88」は企業として成長を加速させる意欲的な計画です。企業としての実力を100%引き出すことで、社会全体に対しても雇用創出をはじめとする価値を生み出したいと考えています。同時に、重点分野および市場への戦略的な投資も継続していきます。今後も適切な利益確保に努め、社会に対する価値創造を継続的に高めることを目指します。

### 重点分野および市場への戦略的な投資

グローバル市場における日産の成長を加速させるには、事業と市場を拡大し、世界のあらゆる市場でお客様のニーズに合った商品を提供する必要があります。その実現にはグローバルに展開する生産体制を強化し、日産のモノづくり機能を拡充しなければなりません。

日産はニッサン、インフィニティに続く第3のブランドであるダットサンを復活させました。高い成長を続ける市場で将来の成功を夢見るすべてのお客様に、ダットサンはクルマのある豊かな生活を提供します。2014年3月、インド市場では、ダットサン「GO」に続きダットサン「GO+（ゴープラス）」を発売しました。また、インドネシア市場では、MPVのダットサン「GO+ Panca（ゴープラス パンチャ）」とハッチバックのダットサン「GO Panca（ゴー パンチャ）」の販売を開始。このモデルは、西ジャワ州プルワカルタの新工場で生産されています。ロシア市場に向けてはロシアの

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

お客さまのニーズに合わせてデザイン・開発した4ドア5人乗りセダン、ダットサン「on(オン)-DO(ドール)」とハッチバックのダットサン「mi(ミ)-DO(ドール)」の販売を開始。生産は、ルノー・日産アライアンスとパートナーシップを組んでいるアフワズのトリアッティ工場で行われています。ダットサン・ブランド第4の市場となる南アフリカでは、2014年10月にダットサン「GO」の販売を開始しました。斬新でワクワクする革新的なものを提供していくというダットサンの哲学は、高成長市場で受け入れられ、2015年には4カ国での累計販売台数が10万台を突破しました。

インフィニティにおいては、米国テネシー州デカード工場、インフィニティ「Q50」とメルセデス・ベンツ「Cクラス」用2.0リッター4気筒エンジンの生産を開始しました。ルノー・日産アライアンスとダイムラーAGの提携により、最大稼働時の生産能力は年間25万基規模となりました。ダイムラーAGとの提携では、2015年9月、メルセデス・ベンツおよびインフィニティ向け次世代プレミアムコンパクトカーを生産するメキシコのアグアスカリエンテス新工場の建設に着手しました。新工場は日産のアグアスカリエンテス第2工場に隣接して建設され、初期段階の年間生産能力は23万台以上を予定しており、2020年までに約3,600名の直接雇用を創出します。2017年にはインフィニティ向けモデル、2018年にはメルセデス・ベンツのモデルの生産を開始する予定です。メキシコのサプライヤーベースを拡大し、高い現地調達率を実現します。

高級車へのニーズが高まっている中国市場では、日産自動車株式会社と東風汽車有限公司との戦略的パートナーシップをさらに前進させ、東風インフィニティ汽車有限公司(以下、東風インフィニティ)を正式に発足させました。中国のラグジュアリーカー市場とともに発展していくことを決意したものです。東風インフィニティは「一つの戦略、一つのブランド、一つのチーム、一つのチャンネル」という経営方針のもと、インフィニティ・ブランドを展開していきます。インフィニティ・ブランドとして中国での現地生産第1号車となるインフィニティ「Q50L」の販売を開始。生産を

スタートした湖北省の襄陽工場は、生産能力を年間25万台に増強しており、そのうちの6万台はインフィニティ・モデルの生産を担います。日本、米国に続く、インフィニティ3番目のグローバル生産拠点として、商品ラインアップを一層強化しつつ、中国事業のさらなる発展と拡大に取り組みます。

### 新たな価値の創出や競争力の強化を目指す「攻め」のIT活用

日産は2015年5月、収益拡大や事業革新に向け積極的なITの活用を実施している優れた上場企業として「攻めのIT経営銘柄」に選定されました。経済産業省が、日本企業の戦略的IT活用を促進するため、東京証券取引所と共同で2014年度に創設したもので、今回が初の銘柄選定です。

企業の製品・サービス開発強化やビジネスモデル変革を通じて新たな価値を創出し、競争力の強化を目指す「攻め」のIT活用は、世界中の先進企業が積極的に行っているとされています。本銘柄は、積極的に「攻めのIT経営」に取り組む企業を投資家等へ紹介するとともに、IT活用の重要性に関する経営者の意識変革を促すことを目的としています。

日産のグローバルIT戦略である「VITESSE」<sup>▶</sup>に基づくソリューション構築を経営戦略と連動して実行している点が評価されました。

▶ 「VITESSE」とは、「Value Innovation」「Technology Simplification」「Service Excellence」の頭文字をとったもので、ITによるビジネス価値の創造をスピーディーに進めることを目的としている



攻めのIT経営銘柄  
Competitive IT Strategy Company

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

### 株主・投資家の皆さまとの対話

**株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、IR(株主・投資家向け広報)活動においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。**

#### 株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションとして、四半期ごとの決算説明会に加え、機関投資家への個別訪問や証券アナリストとの取材対応を頻繁に行っているほか、会社主催の事業説明会や証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況などを積極的に情報開示しています。また、個人投資家向けに開催される証券会社主催の会社説明会にも参加しています。さらに、投資家向けのウェブサイトを経営し、随時最新情報を開示しています。

事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層から積極的に情報提供しています。2015年度は、インフィニティ事業やパワートレイン技術の動向や戦略についての説明会を実施しました。日産は、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などに関して、さまざまな機会を通じて情報開示に努めています。

日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

#### 第116回株主総会

第116回定時株主総会は、2015年6月23日、パシフィコ横浜で開催され、1,711名の株主の皆さまにご出席いただきました。株主総会後には最高経営責任者(CEO)であるカルロス・ゴーンをはじめ執行役員以上が

全員参加する懇親会を行い、対話の機会を持ちました。

株主総会は、日産の経営陣が株主の皆さまと直接コミュニケーションをとれる貴重な機会です。株主総会や関連イベントを通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても十分な説明をすることで、信頼に応えていきたいと考えています。

また、株主総会に際しては、株主の皆さまの日産への質問や意見を事前に募集し、説明や報告、質疑応答を充実させる取り組みを、2009年から続けています。

2008年から追浜工場で開催している「日産自動車技術体験会」では、工場生産ラインの見学やテストコースでの試乗体験などを通じて日産の技術を体感していただくほか、役員との懇談の場を設定し、活発な意見交換を行っています。2015年6月20日には株主総会に先立ち、抽選により200名の株主の皆さまを招待しました。株主の皆さまとの貴重なコミュニケーションは、直後に行われる株主総会の大きな参考となっています。

#### IR活動で外部から高い評価

日産は、公益社団法人日本証券アナリスト協会主催の第21回「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、自動車・同部品・タイヤ部門の3位に選定されました。「ディスクロージャー優良企業選定」は、企業の情報開示向上を目的に設立され、各業種のアナリストが、経営陣のIR姿勢、説明会、フェアディスクロージャー、コーポレートガバナンス、自主的情報開示の5項目における評価を行います。日産は、経営陣のIRへの積極的な取り組みといったフェアディスクロージャーや、説明会などでの適切な質疑応答、コーポレートガバナンスなどが高く評価されました。

▶ website  
 IR情報に関する詳細はウェブサイトをご覧ください